

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉利 宗久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の理念や仕組みに関する基本的な知識を身に付ける。とくに、特別支援教育関係法規の内容と新たな動向を関連づけながら、特別な教育的ニーズに基づく支援の原則（自立活動の本質的な構造構成を含む）を理解する。			
授業の概要 特別支援教育に関する理念と政策的な動向（特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画等）を捉えるとともに、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」の基本的な枠組みについて教授する。			
授業計画 第1回：特別支援教育の基盤と基本理念（憲法、教育基本法、学校教育法、関連通知） 第2回：特別支援教育の制度と現状①（特別支援学校の目的と対象） 第3回：特別支援学校の制度と現状②（特別支援学校のセンター的機能） 第4回：特別支援学校の制度と現状③（特別支援学校への就学システム他） 第5回：通常の学校における特別支援教育の制度と現状①（通常の学級） 第6回：通常の学校における特別支援教育の制度と現状②（特別支援学級） 第7回：通常の学校における特別支援教育の制度と現状③（通級による指導） 第8回：特別支援教育関連法令の整理（標準法、特別支援学校設置基準、教育職員免許法） 第9回：視覚障害者教育に関する動向と指導原則 第10回：聴覚障害者教育に関する動向と指導原則 第11回：知的障害者教育に関する動向と指導原則 第12回：肢体不自由者教育に関する動向と指導原則 第13回：病弱者教育に関する動向と指導原則 第14回：特別支援学級に関する動向と指導原則（言語障害者教育、自閉症・情緒障害者教育） 第15回：通常の学級に関する動向と指導原則（学習障害者教育、注意欠如多動性障害者教育） 定期試験			
テキスト ・吉利宗久，千賀愛（共編著）特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち，培風館，2023年3月。（ISBN：9784563052607）			
参考書・参考資料等			

- ・文部科学省（著）障害のある子供の教育支援の手引 子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて．ジアース教育新社．2022年3月（ISBN:9784863716131）
- ・文部科学省（著）特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示．海文堂出版．2018年3月（ISBN： 9784303124243）
- ・文部科学省（著）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）．2018年3月（ISBN： 9784304042317）

学生に対する評価

受講態度・意欲（40%）、小レポート（10%）、および定期試験（50%）により評価する。

授業科目名： 特別支援教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉利 宗久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
障害のある子どもの教育をめぐる歴史的事項やその背景を知り、制度や思想の変遷を理解する。さらに、教育実践に寄与する新たな「障害者観」と将来的展望を確立することを目指す。			
授業の概要			
障害のある子どもの教育における歴史的展開について概観する。とくに、障害のある子どもに対する教育の成立過程について、欧米における実践の登場と展開を整理し、それがわが国に与えた影響や受容過程について論ずる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・障害者教育前史（遺跡・神話における障害者）			
第2回：欧米における聴覚障害者教育の発生と展開（ド・レペ、ハイニッケ）			
第3回：欧米における視覚障害者教育の発生と展開（アユイ、ブライユ）			
第4回：わが国における視・聴覚障害者教育の発生と展開（古河太四郎、石川倉次）			
第5回：欧米における知的障害者教育の発生と展開（イタール、セガン）			
第6回：わが国における知的障害者教育発生と展開（石井亮一）			
第7回：欧米における肢体不自由者教育の発生と展開（クルツ、クヌーゼン）			
第8回：わが国における肢体不自由者教育の発生と展開（高木憲次）			
第9回：欧米とわが国の病弱者教育の発生と展開（ヴァルトシューレ、白十字会林間学校）			
第10回：わが国における言語障害者教育の発生と展開			
第11回：わが国における自閉症・情緒障害者教育の発生と展開			
第12回：ハンセン病の歴史（強制隔離政策の推進と人権回復）			
第13回：障害者問題の到達点と新たな課題（インクルーシブ教育の国際動向）			
第14回：障害者問題の到達点と新たな課題（障害者権利条約、障害者差別解消法）			
第15回：全体まとめ（歴史の概観と新たな障害者観の形成に向けて）			
定期試験			
テキスト			
・授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
・中村満紀男、荒川智（編）障害児教育の歴史。明石書店。2003年10月（ISBN：4750318019）			
・藤島岳 他（編）特別支援教育史・人物事典 復刻。2015年7月（ISBN：4284307665）			

学生に対する評価

受講態度・意欲（40%）、小レポート（10%）、および定期試験(50%)により評価する。

授業科目名： 特別支援教育演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉利 宗久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育・インクルーシブ教育に関する教育学的文献の講読と検討を通して、近年における研究動向や分析方法の基礎的手続き（対象、研究倫理、論文構成、展開等）を理解する。			
授業の概要			
特別支援教育学の視点から現代的教育課題を捉え、それを解決するために適用可能な研究方法（質問紙調査、面接調査、事例研究他）の基本的特徴を知る。さらに、各自が定めたテーマに基づき、研究デザインを構想し、その妥当性に関する検討を行う。			
授業計画			
第 1 回：文献検索・資料収集の方法（データベースを用いた資料収集法、記述法等）			
第 2 回：特別支援教育学研究の方法（1）（文献研究の解説）			
第 3 回：特別支援教育学研究の方法（2）（面接法の解説）			
第 4 回：特別支援教育学研究の方法（3）（質問紙法の解説）			
第 5 回：個人発表・討論（1）（収集文献の講読・文献研究）			
第 6 回：個人発表・討論（2）（収集文献の講読・面接法）			
第 7 回：個人発表・討論（2）（収集文献の講読・質問紙法）			
第 8 回：研究方法のまとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
・授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
・吉利宗久，千賀愛（共編著）特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち．培風館．2023年3月．（ISBN：9784563052607）			
・中寫 洋（著）初学者のための質的研究26の教え．医学書院．2015年7月（ISBN：978-4260024051）			
学生に対する評価			
受講態度・意欲（50%）、発表（50%）により評価する。			

授業科目名： 特別支援教育演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：吉利 宗久 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育・インクルーシブ教育に関する教育学的文献の分析を通して、近年における研究動向を把握するとともに、研究方法を的確に適用できるようになる。			
授業の概要			
「特別支援教育演習Ⅰ」に引き続き、特別支援教育学の視点から捉えた現代的教育課題について、関心のあるテーマを定め、それを解決するために妥当な研究方法を導入する。得られた結果を正確に分析・解釈し、研究成果を分かりやすく説明することを目指す。			
授業計画			
各自の研究テーマについて、以下の視点を中心にグループディスカッションを進める。			
第1回：研究テーマ、リサーチクエスションの提起（学術的「問い」はなにか）			
第2回：研究の背景と意義（独自性と創造性はどこにあるのか）			
第3回：方法の妥当性（何をどのように、どこまで明らかにするのか）			
第4回：結果の解析（データ処理の妥当性）			
第5回：考察と結論（解釈の妥当性）			
第6回：研究レポート、論文の全体構造の精査			
第7回：最終発表①（研究成果のまとめと議論）			
第8回：最終発表②（研究成果のまとめと議論）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
・授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
・吉利宗久，千賀愛（共編著）特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち．培風館．2023年3月．（ISBN：9784563052607）			
・中寫 洋（著）初学者のための質的研究26の教え．医学書院．2015年7月（ISBN：978-4260024051）			
学生に対する評価			
受講態度・意欲（50%）、発表（50%）により評価する。			

授業科目名： 視覚障害者心理・生理 ・病理学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岸 哲志
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 障害部位と視覚的な困難さの関係について基礎的な知識を獲得する。			
授業の概要 眼球の構造，視機能，眼疾患に関する理解を基に見えにくさについて理解し，視覚障害のある幼児児童生徒の学習又は生活上の困難について考える。			
授業計画 第1回・2回：視覚の基本 第3回・4回：視覚器の構造，眼球，視神経，視覚中枢 第5回・6回：視力 第7回・8回：視野，屈折，色覚 第9回・10回：色覚，視覚認知 第11回・12回：眼疾患の理解と支援①（角膜、水晶体、硝子体、ぶどう膜等の疾患） 第13回・14回：眼疾患の理解と支援②（網膜，視神経，視路の疾患） 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 香川邦生・猪平眞理・大内進・牟田口辰己(2016)，五訂版 視覚障害教育に携わる方のために，慶應義塾大学出版会			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 視覚障害者心理・生理 ・病理学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岸 哲志
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害児者の発達，認知、支援方法について基礎的な知識を獲得する。			
授業の概要 眼球の構造，視機能，眼疾患に関する理解を基に，視覚障害のある幼児児童生徒の学習又は生活上の困難に対する適切な支援について考える。			
授業計画 第1回・2回：教育的視機能評価の意義と実際①（ランドルト環を用いた視機能評価） 第3回・4回：教育的視機能評価の意義と実際②（他覚的な測定による視機能評価） 第5回・6回：視覚補助具の活用と選定の実際 第7回・8回：視覚障害児の発達と学習 第9回・10回：触覚の理論 第11回・12回：聴覚の活用 第13回・14回：中途視覚障害者の心理と支援，家庭や関連機関との連携 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 青柳まゆみ，鳥山由子(2019)，新・視覚障害教育入門，ジアース教育新社出版			
参考書・参考資料等 五十嵐信敬(1993)，視覚障害幼児の発達と指導，コレール社出版			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 聴覚障害者心理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 聴覚障害の概念とともに、社会的環境における聴覚障害児者の発達を理解し、 聴覚障害児者の発達上の問題点について論理的に説明できる。			
授業の概要 聴覚障害と社会(環境)との相互作用の側面から、聴覚障害児の発達について論 じる。			
授業計画 第 1 ・ 2 回：障害の医学モデル・社会モデルと聴覚障害の捉え方 第 3 ・ 4 回：聴覚障害児の認知(知能)発達 第 5 ・ 6 回：聴覚障害児の概念形成と記憶方略 第 7 ・ 8 回：聴覚障害児にとっての手話言語 第 9 ・ 1 0 回：聴覚障害児の言語発達と読み書きの発達 第 1 1 ・ 1 2 回：聴覚障害児の情緒発達と社会性の発達 第 1 3 ・ 1 4 回：聴覚障害に関する自己認識とろう文化 第 1 5 ・ 1 6 回：まとめとテスト			
テキスト 長崎勤・前川久男編著（2008）障害理解のための心理学．明石書店． 四日市章他編（2018）聴覚障害児の学習と指導．明石書店．			
参考書・参考資料等 中野善達・吉野公喜（1999）聴覚障害の心理．田研出版． マーク・マーシャーク（2015）オックスフォード・ハンドブック デフ・スタデ ィーズ ろう者の研究・言語・教育．明石書店 田中真理・横田晋務 編著（2023）障害から始まるイノベーション．北大路書房．			
学生に対する評価 授業後の小レポート35点、期末テスト65点			

授業科目名： 知的障害者心理学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害のある子どもが適応的な行動をとることの難しさの理解とそれを支援することをめざして、以下のことを到達目標とします。 1) 心理面の特徴から理解できる 2) 観察や検査ツールを通して、認知の特性から理解できる 3) 行動の理由を探る手法、行動を育てる手法を理解できる 4) 家庭、医療機関、療育機関等の連携の重要性について理解できる			
授業の概要			
知的障害や自閉症スペクトラムのある子どもの心理面の特徴、適応的な行動の困難さ、およびその背景となる認知の特性についての理解をめざす講義である。			
授業計画			
第1回：知的障害の定義と分類（1）知的障害の定義			
第2回：知的障害の定義と分類（2）知能水準と適応機能			
第3回：知的障害の心理的特徴（1）メンタルヘルス			
第4回：知的障害の心理的特徴（2）心理相談			
第5回：知的機能と適応行動のアセスメント（1）知能検査			
第6回：知的機能と適応行動のアセスメント（2）適応行動尺度			
第7回：知的障害の感覚機能（1）視覚機能			
第8回：知的障害の感覚機能（2）聴覚機能			
第9回：知的障害の注意・記憶（1）注意			
第10回：知的障害の注意・記憶（1）記憶			
第11回：知的障害の学習（1）強化の原理			
第12回：知的障害の学習（2）行動随伴性と支援の工夫			
第13回：知的障害の運動・スポーツ（1）アダプテッド			
第14回：知的障害の運動・スポーツ（2）アダプテッドと教材や環境調整の工夫			
第15回：知的障害の心理特性（まとめ）			
定期試験またはレポート			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

勝二博亮編（2022）知的障害児の心理・生理・病理：エビデンスに基づく特別支援教育のために．北大路書房．

学生に対する評価

試験またはレポート60%，ミニレポート20%，講義中の意欲・態度・発表等20％の割合で総合的に評価します。

授業科目名： 知的障害者心理学概論 Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害のある子どもが適応的な行動をとることの難しさの理解とそれを支援することをめざして、以下のことを到達目標とします。 1) 心理面の特徴から理解できる 2) 観察や検査ツールを通して、認知の特性から理解できる 3) 行動の理由を探る手法、行動を育てる手法を理解できる 4) 家庭、医療機関、療育機関等の連携の重要性について理解できる			
授業の概要			
知的障害や自閉症スペクトラムのある子どもの心理面の特徴、適応的な行動の困難さ、およびその背景となる認知の特性についての理解をめざす講義である。			
授業計画			
第1回：知的障害の行動理解（1）応用行動分析学の枠組み 第2回：知的障害の行動理解（2）行動の先行事象（背景要因、行動のきっかけ） 第3回：知的障害の行動理解（3）行動の後続事象（行動のやりがい） 第4回：知的障害の行動理解（4）行動の後続事象（行動の強化子） 第5回：知的機能と行動理解（5）医療・療育機関との連携 第6回：知的機能と行動理解（6）行動の機能アセスメント 第7回：知的障害の行動支援（1）余暇支援 第8回：知的障害の行動支援（2）家庭との連携 第9回：知的障害の行動支援（3）課題分析による行動支援 第10回：知的障害の行動支援（4）日常生活動作の支援 第11回：知的障害の行動支援（5）言語・読み書きの学習支援 第12回：知的障害の行動支援（6）本人の強みと好みを活用した支援 第13回：知的障害の行動支援（7）ICTを活用した支援 第14回：知的障害の行動支援（8）プロンプト技法を用いた支援 第15回：知的障害の行動理解・支援のまとめ 定期試験またはレポート			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

島宗理（2019）応用行動分析学 ヒューマンサービスを改善する行動科学. 新曜社.

学生に対する評価

試験またはレポート60％，ミニレポート20％，講義中の意欲・態度・発表等20％の割合で総合的に評価します。

授業科目名： 知的障害者生理・病理 学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大守伊織
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関 する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標：知的障害の要因となる疾患・併存症・認知の特性を理解し、医療機 関等との連携がとれるようになる。			
授業の概要：知能の生理学とそれが破綻したときに生じる知的障害の病理、疾患、家庭や医療 機関等との連携を解説する。			
授業計画			
第1回：神経系構造の全体像			
第2回：神経細胞・グリア細胞の機能・膜電位とシナプス伝達			
第3回：大脳皮質の構造と機能（1）：前頭葉、頭頂葉			
第4回：大脳皮質の構造と機能（2）：側頭葉、後頭葉			
第5回：記憶・学習のしくみ			
第6回：知的障害に併存するてんかんの病理			
第7回：てんかん発作への対応と家庭・医療機関との連携			
第8回：知的障害を併存しやすい先天異常の症状・病態			
第9回：知的障害を併存しやすい脳性麻痺をもつ子どもへの対応			
第10回：知的障害に併存する神経発達症の症状と家庭・医療機関との連携			
第11回：神経発達症をもつ子どもの育てにくさへの理解と虐待への対応・多職種連携			
第12回：ミトコンドリア脳筋症の症状・病態			
第13回：統合失調症の症状・病態および家庭・多職種との連携			
第14回：吃音の症状・心身への二次的障害・学校での配慮事項			
第15回：性的マイノリティの子ども生きづらさ・心身への二次的障害と性の多様性の理解			
定期試験			
テキスト			
講義資料は参考書・資料等をもとに、教員が作成する。			
参考書・参考資料等			
病気がみえる 脳・神経, 医療情報科学研究所 メディックメディア出版			
学生に対する評価			
授業ごとの課題・グループワークでの積極性・定期試験を総合的に評価する。			

授業科目名： 肢体不自由者心理・生理・病理学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
肢体不自由の起因疾患と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。			
授業の概要			
肢体不自由の心理・生理・病理にかかわる基礎的な事項を解説する。			
授業計画			
第1回：授業案内			
第2回：肢体不自由の定義			
第3回：肢体不自由の起因疾患の概要（1）脳原性疾患			
第4回：肢体不自由の起因疾患の概要（2）その他（脊髄疾患等）			
第5回：正常運動発達と特異的運動発達（1）腹臥位の発達			
第6回：正常運動発達と特異的運動発達（2）背臥位の発達			
第7回：正常運動発達と特異的運動発達（3）坐位の発達			
第8回：正常運動発達と特異的運動発達（4）床上運動の発達			
第9回：正常運動発達と特異的運動発達（5）立位の発達			
第10回：正常運動発達と特異的運動発達（6）歩行の発達			
第11回：低出生体重児（1）ハイリスク因子			
第12回：低出生体重児（2）GM			
第13回：低出生体重児（3）発達経過			
第14回：低出生体重児（4）長期的な発達経過			
第15回：ふりかえりとまとめ			
定期試験			
テキスト			
「障がいのある子の保育・教育のための実践障がい学」 佐藤暁著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
必要に応じて配布する。			

学生に対する評価 小レポート50%、定期試験50%

授業科目名： 肢体不自由者心理・生理・病理学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 肢体不自由の起因疾患と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。			
授業の概要 肢体不自由の心理・生理・病理にかかわる基礎的な事項を解説する。			
授業計画 第1回：授業案内 第2回：肢体不自由に伴うさまざまな障害 第3回：脳性麻痺の定義 第4回：脳性麻痺の合併症 第5回：肢体不自由児における感覚機能の発達と認知の特性 第6回：肢体不自由児における知的機能の発達と学習障害 第7回：肢体不自由児における自己組織化（1）考え方 第8回：肢体不自由児における自己組織化（2）応用 第9回：重症心身障害の心理（1）定義 第10回：重症心身障害の心理（2）世界経験 第11回：家庭との連携（1）基本 第12回：家庭との連携（2）実際 第13回：医療との連携（1）基本 第14回：医療との連携（2）実際 第15回：ふりかえりとまとめ 定期試験			
テキスト 「障がいのある子の保育・教育のための実践障がい学」 佐藤暁著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 必要に応じて配布する。			

学生に対する評価 小レポート50%、定期試験50%

授業科目名： 病弱者心理・生理・病理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大守伊織
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：病、含む領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標：病弱の要因となる各疾患の特性を理解し、医療機関等との連携がとれるようになる。			
授業の概要：身体の生理学とそれが破綻したときに生じる身体障害の病理、疾患、家庭や医療機関等との連携を解説する。			
授業計画			
第1回：子どもに多い感染症と感染症対策			
第2回：予防接種			
第3回：生体防御のしくみ			
第4回：アレルギー疾患：喘息・食物アレルギーの症状と疾患特性			
第5回：アナフィラキシーショック時の学校での対応および家庭・医療機関との連携			
第6回：小児がんの特性・家族が抱える諸問題および医療機関との連携			
第7回：遺伝性腫瘍の特性			
第8回：先天異常の特性			
第9回：内分泌疾患：成長障害・糖尿病等の特性および家庭・医療機関との連携			
第10回：腎疾患の特性および家庭・医療機関との連携			
第11回：筋疾患の特性および家庭・医療機関との連携			
第12回：心疾患の特性および家庭・医療機関との連携			
第13回：睡眠と生体リズム			
第14回：不登校の背景にある子どもの病気			
第15回：病気を持つ子どもの教育保障を考える			
定期試験			
テキスト			
講義資料は参考書・資料等をもとに、教員が作成する。			
参考書・参考資料等			
病気がみえる<vol. 15> 小児科 医療情報科学研究所 メディックメディア出版			
学生に対する評価			
授業ごとの課題・グループワークでの積極性・定期試験を総合的に評価する。			

授業科目名： 特別支援心理演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育に関する自らの問題意識を深め、その問題解決に向けた基本的な知識を習得する。 本講義では、自ら文献や先行研究を調べて発表し、仲間とともに議論し合う中で、特別支援教育に関する自らが探究したいテーマを導き出せることを目標とします。			
授業の概要			
特別支援教育に関する問題の探究と、その解決に向けた知識的基盤を作るため、文献の講読及び課題発表を進める。			
授業計画			
第1・2回：オリエンテーション：特別支援教育に関する探究したいテーマ探し 第3・4回：文献講読の方法・特別支援教育に関する心理学的研究法の紹介 第5・6回：プレゼンテーションとディスカッション（文献研究） 第7・8回：プレゼンテーションとディスカッション（フィールドワーク） 第9・10回：プレゼンテーションとディスカッション（文献またはフィールドワーク） 第11・12回：プレゼンテーションとディスカッション（自己課題・問題意識の整理） 第13・14回：プレゼンテーションとディスカッション（取り組みたいテーマ設定） 第15回：まとめと今後の研究の方向性のプレゼンテーション レポート			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
近藤克則（2018）研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」．医学書院.			
学生に対する評価			
プレゼンテーションとディスカッション50％、レポート30％、講義中の意欲・態度・発表等20％の割合で総合的に評価します。			

授業科目名： 特別支援心理演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育に関する自らの問題意識を深め、その問題解決に向けた基本的な知識を習得する。 本講義では、自ら文献や先行研究を調べて発表し、仲間とともに議論し合う中で、特別支援教育に関する自らが探究したいテーマを導き出せることを目標とします。			
授業の概要			
特別支援教育に関する問題の探究と、その解決に向けた知識的基盤を作るため、文献の講読及び課題発表を進める。			
授業計画			
第1・2回：プレゼンテーションとディスカッション（研究課題の整理） 第3・4回：プレゼンテーションとディスカッション（先行研究で扱われている方法） 第5・6回：プレゼンテーションとディスカッション（研究で扱いたい方法） 第7・8回：プレゼンテーションとディスカッション（研究デザインの構想） 第9・10回：プレゼンテーションとディスカッション（研究デザインの練り直し） 第11・12回：プレゼンテーションとディスカッション（研究の目的・方法等のデザイン発表） 第13・14・15回：プレゼンテーションとディスカッション（研究計画・リサーチクエスションの発表） レポート			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
近藤克則（2018）研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」．医学書院．			
学生に対する評価			
プレゼンテーションとディスカッション50％、レポート30％、講義中の意欲・態度・発表等20％の割合で総合的に評価します。			

授業科目名： 特別支援病理演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大守伊織
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知、含む領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
病弱児・発達障害児のみならず、LGBT等の性の多様性、虐待など、特別な支援を必要とする社会問題の理解を深める。文献等で情報を収集する。学生の希望により、発達生理および発達障害病理における動物実験や分子病態研究を行う。			
到達目標：子どもの病気に対する基礎知識を習得し、病気の特徴をふまえたうえで、適切な学習支援ができるようになる。			
授業の概要			
病弱児・発達障害児のみならず、LGBT等の性の多様性、虐待など、特別な支援を必要とする社会問題の理解を深める。文献等で情報を収集する。学生の希望により、発達生理および発達障害病理における動物実験や分子病態研究を行う。			
授業計画			
第1回 講義概要説明・文献検索の方法			
第2回 脳の構造と機能			
第3回 発達障害			
第4回 発達障害に伴う二次障害とその対応			
第5回 児童虐待の背景・対応における多職種連携			
第6回 性的マイノリティ当事者の支援			
第7回 学校生活での配慮			
第8回 総括			
テキスト			
授業で適宜配布する。			
参考書・参考資料等			
病気がみえる<vol. 15> 小児科 医療情報科学研究所 メディックメディア出版			
学生に対する評価			
小課題 (30%) レポート課題 (70%)			

授業科目名： 特別支援病理演習II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大守伊織
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知、含む領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
病弱児・発達障害児のみならず、LGBT等の性の多様性、虐待など、特別な支援を必要とする社会問題の理解を深める。文献等で情報を収集する。学生の希望により、発達生理および発達障害病理における動物実験や分子病態研究を行う。			
到達目標：子どもの病気に対する基礎知識を習得し、病気の特徴をふまえたうえで、適切な学習支援ができるようになる。			
授業の概要			
病弱児・発達障害児のみならず、LGBT等の性の多様性、虐待など、特別な支援を必要とする社会問題の理解を深める。文献等で情報を収集する。学生の希望により、発達生理および発達障害病理における動物実験や分子病態研究を行う。			
授業計画			
第1回 講義概要説明・論文の書き方			
第2回 慢性疾患を持つ子どもの支援・家族支援			
第3回 アレルギー疾患と支援			
第4回 腎臓病と支援			
第5回 小児がんの特性・配慮			
第6回 内分泌疾患（糖尿病）と支援			
第7回 ICTを活用した授業			
第8回 総括			
テキスト			
授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
病気がみえる<vol. 15> 小児科 医療情報科学研究所 メディックメディア出版			
学生に対する評価			
レポート課題（70％） グループワーク（30％）			

授業科目名： 視覚障害者教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 具体的な実践例を通して、指導上の配慮事項に基づいた視覚障害幼児児童生徒に対する指導方法について基礎的な知識を獲得する。			
授業の概要 授業担当者が盲学校での指導経験に基づき、視覚障害児に対する指導上の配慮事項について解説する。これを踏まえ、各教科や自立活動の指導について具体的に考える。			
授業計画 第1回・2回：盲児に対する指導の基本 第3回・4回：弱視児に対する指導の基本 第5回・6回：視覚障害乳幼児の発達と支援 第7回・8回：点字の指導 第9回・10回：歩行指導 第11回・12回：各教科の指導と教材・教具 第13回・14回：指導計画の立案と授業構想 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 青柳まゆみ，鳥山由子(2019)，新・視覚障害教育入門，ジアース教育新社出版			
参考書・参考資料等 大河原潔(1977)，視覚障害教育の理論と実践，第一法規出版			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 視覚障害者指導論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害の特性を踏まえ、点字を系統的に習得することができるための指導方法について基礎的な知識を獲得する。			
授業の概要 盲学校での指導経験を有する授業担当者が、指導上の配慮事項に基づいた視覚障害幼児児童生徒に対する点字指導について解説する。			
授業計画 第1回・2回：視覚障害児に対する指導の基本（文字の系統的な習得） 第3回・4回：点字の歴史、点字の読み①（五十音） 第5回・6回：点字の読み②（濁音、半濁音、拗音） 第7回・8回：点字の書き①（五十音、濁音、半濁音、拗音） 第9回・10回：点字の書き②（分かち書き、切れ続き） 第11回・12回：点字の表記法（文章の点訳） 第13回・14回：点字指導の実際 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 文部科学省(2003)、点字学習指導の手引(平成15年度改訂版)、日本文教出版 日本点字委員会(2019)、日本点字表記法2018年度版、日本点字委員会出版			
参考書・参考資料等 全国視覚障害者情報提供施設協会(2019)、点訳のてびき 第4版			
学生に対する評価 授業ごとの点字表記課題と最終試験により評価する。			

授業科目名： 視覚障害者指導論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害の特性を踏まえ、歩行に関する指導方法について基礎的な知識を獲得する。			
授業の概要 盲学校での指導経験を有する授業担当者が、指導上の配慮事項に基づいた視覚障害幼児児童生徒に対する歩行指導について解説する。			
授業計画 第1回・2回：視覚障害児に対する指導の基本（保有感覚の活用） 第3回・4回：歩行指導①（ガイド歩行） 第5回・6回：歩行指導②（屋内歩行） 第7回・8回：歩行指導③（白杖の基本操作） 第9回・10回：歩行指導⑤（市街地歩行における障害物の発見） 第11回・12回：歩行指導⑥（市街地の歩行における道路横断） 第13回・14回：歩行指導⑦（公共交通機関の利用） 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 芝田裕一(2010), 視覚障害児・者の歩行指導―特別支援教育からリハビリテーションまで, 北大路書房出版			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 視覚障害教材作成法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害教育における触覚教材作成上の留意点や作成に必要な知識、技能を修得する。 (1)触覚教材作成方法の種類とその特徴を理解する。 (2)目的に応じた触図作成方法を選択し、教材を作成することができる。			
授業の概要 盲学校での指導経験を有する授業担当者による、視覚障害幼児児童生徒が学習に用いる触覚教材に関する解説を基に、触図作成の実際を学ぶ。			
授業計画 第1回・2回：第1回：触覚の特性と概念形成 第3回・4回：触図作成の実際①（レーズライター） 第5回・6回：触図作成の実際②（立体コピー） 第7回・8回：触図作成の実際③（点字プリンタ） 第9回・10回：触図作成の実際④（サーモフォーム、真空成形） 第11回・12回：触図作成の実際⑤（3Dプリンタ） 第13回・14回：触図を使用した授業の構想 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
参考書・参考資料等 長尾博(2005)、パソコンで仕上げる点字の本&図形点訳、読書工房出版			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 視覚障害教材作成法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
視覚障害教育における拡大教材作成上の留意点や作成に必要な知識，技能を修得する。 (1) 拡大教材の作成方法とその特徴を理解する。 (2) 弱視者の視覚の状況に応じ，教材を作成することができる。			
授業の概要 盲学校での指導経験を有する授業担当者による，視覚障害幼児児童生徒が学習に用いる拡大教材に関する解説を基に，拡大教材作成の実際を学ぶ。			
授業計画 第1回・2回：ロービジョンの理解と支援①（見えにくさの理解） 第3回・4回：ロービジョンの理解と支援②（視覚補助具の活用） 第5回・6回：拡大教材の実際①（拡大教科書） 第7回・8回：拡大教材の実際②（pdf版拡大教科書） 第9回・10回：拡大教材の作成①（教育的視機能評価によるアセスメント） 第11回・12回：拡大教材の作成②（pdf版拡大教材作成演習） 第13回・14回：拡大教材の作成③（作成した教材の評価） 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 国立特殊教育総合研究所(2005)，「拡大教科書」作成マニュアル，ジアース教育新社出版			
学生に対する評価 授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 特別支援教職演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害教育の目的、意義、指導法に関する理解を深めるとともに、研究の基本的な方法を知る。			
授業の概要 特別支援学校（視覚障害）の指導実践にかかわる解説・演習、及び、実際の授業・指導を素材とした授業分析、授業研究を行う。			
授業計画 第1回・2回：視覚障害の定義、視覚障害児童生徒の教育課程 第3回・4回：視覚障害教育の歴史的変遷 第5回・6回：視覚障害児のアセスメント 第7回・8回：視覚障害に配慮した指導法及び教材の活用①（総論） 第9回・10回：視覚障害に配慮した指導法及び教材の活用②（全盲児童の指導） 第11回・12回：視覚障害に配慮した指導法及び教材の活用③（弱視児童の指導） 第13回・14回：視覚障害に配慮した指導法及び教材の活用④（点字導入期の指導） 第15回：まとめ			
テキスト 全国盲学校長会 視覚障害教育Q＆A（ジアース教育新社） 文部科学省 点字学習指導の手引（ジアース教育新社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 最終レポート（80%）授業毎に提出する小課題（20%）			

授業科目名： 特別支援教職演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害教育の目的、意義、指導法に関する理解を深めるとともに、研究の基本的な方法を知る。			
授業の概要 特別支援学校（視覚障害）の指導実践にかかわる解説・演習、及び、実際の授業・指導を素材とした授業分析、授業研究を行う。			
授業計画 第1回・2回：視覚障害に配慮した指導法及び教材の活用⑤（歩行指導） 第3回・4回：視覚障害に配慮した指導法及び教材の活用⑥（ICTの活用） 第5回・6回：触図作成演習①（点図及び立体コピー） 第7回・8回：触図作成演習②（真空成形及び3Dプリンタ） 第9回・10回：視覚障害教育に関する研究動向 第11回・12回：研究課題の導出 第13回・14回：研究方法の検討 第15回：まとめ			
テキスト 全国盲学校長会 歩行指導Q＆A（ジアース教育新社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 最終レポート（80%）授業毎に提出する小課題（20%）			

授業科目名： 聴覚障害者教育課程・ 方法論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援学校（聴覚障害）の教育において教育課程が有する意義を理解する。また、児童又は生徒の聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに聴覚障害特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。			
授業の概要 特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（聴覚障害）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントについて教授する。			
授業計画 第 1 ・ 2 回：聴覚障害教育の教育制度及び教育課程と教育内容 第 3 ・ 4 回：聴覚障害教育の教育課程編成の意義と編成方法 第 5 ・ 6 回：聴覚障害教育における個別の指導計画、カリキュラム・マネジメント 第 7 ・ 8 回：聴覚障害児への言語指導、コミュニケーションにおける多様な方法の機能と特徴 第 9 ・ 1 0 回：聴覚障害児への教科指導 第 1 1 ・ 1 2 回：聴覚障害児への自立活動 第 1 3 ・ 1 4 回：聴覚障害児への職業教育・キャリア教育 第 1 5 ・ 1 6 回：聴覚障害児への情報保障の考え方とテスト			
テキスト 四日市章他 編著（2018）聴覚障害児の学習と指導—発達と心理学的基礎．明石書店． 文部科学省（2020）聴覚障害教育の手引．ジアース教育新社．			
参考書・参考資料等 宍戸和成他 編著（2023）聴覚障害教育の基本と実践（特別支援教育のエッセンス）．慶應義塾大学出版会．			
学生に対する評価			

授業後の小レポート35点、期末テスト65点

授業科目名： 聴覚障害者教育課程・ 方法論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 聴覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 聴覚障害のある児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について教授する。			
授業計画 第 1 ・ 2 回：聴覚障害の状態や特性及び発達段階の捉え方 第 3 ・ 4 回：多様な意思伝達の方法とその選択・活用、聴覚活用、音声コミュニケーション 第 5 ・ 6 回：手話コミュニケーションの基礎 1 第 7 ・ 8 回：手話コミュニケーションの基礎 2 第 9 ・ 1 0 回：手話コミュニケーションの基礎 3 第 1 1 ・ 1 2 回：聴覚障害児の学習環境の整備と ICT 活用 第 1 3 ・ 1 4 回：自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成と授業改善 第 1 5 ・ 1 6 回：まとめとテスト			
テキスト 大沼直紀監修・著（2017）教育オーディオロジーハンドブック． ジアース教育新社．			
参考書・参考資料等 岡典栄・赤堀仁美（2011）〈文法が基礎からわかる〉 日本手話のしくみ．大修館書店． 岡典栄・赤堀仁美（2016）日本手話のしくみ練習帳．大修館書店． 木村晴美・市田 泰弘（2014）はじめての手話．生活書院． 宍戸和成他 編著（2023）聴覚障害教育の基本と実践（特別支援教育のエッセンス）．慶應義塾大学出版会． 全日本ろうあ連盟（2015）わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ．			

全日本ろうあ連盟（2014）わたしたちの手話 学習辞典Ⅱ.

ろう教育を考える全国協議会（編）（2015）学校の手話—ゆたかな学習と生活のために.

学生に対する評価

授業後の小レポート28点、手話実技テスト32点、期末テスト40点

授業科目名： 聴覚障害診断・評価法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 聴覚機能の評価の方法や結果の解釈について理解する。			
授業の概要 聴覚機能の評価の方法や結果の解釈について教授する。			
授業計画 第1・2回：聴覚機構の構造と機能、発達段階に応じたきこえの評価法 第3・4回：標準純音聴力検査の手続きと実施上の留意点 第5・6回：標準純音聴力検査予備演習 第7・8回：標準純音聴力検査本演習 第9・10回：音場での聴力検査の手続きと実施上の留意点 第11・12回：音場での聴力検査予備演習 第13・14回：音場での聴力検査演習 第15・16回：結果の解釈とそれに基づく指導計画の立て方			
テキスト 大沼直紀監修・著（2017）教育オーディオロジーハンドブック，ジアース教育 新社			
参考書・参考資料等 日本聴覚医学会（編）（2017）聴覚検査の実際．南山堂．			
学生に対する評価 課題レポート：50点、小テスト50点			

授業科目名： 聴覚障害診断・評価法 Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 聴覚機能の評価や心理・発達検査の結果に基づく指導計画の立て方、ならびに事後の評価について理解する。また、聴覚障害児に対する教育相談に関する基礎的事項について理解する。			
授業の概要 聴覚機能の評価や心理・発達検査の結果に基づく指導計画の立て方、ならびに事後の評価について教授する。また、聴覚障害児に対する教育相談に関する基礎的事項について教授する。			
授業計画 第1・2回：幼稚部入学前段階における教育相談と検査の位置付け 第3・4回：聴覚障害児に適用できる各種の心理検査の概要と実施上の留意点 第5・6回：検査結果の解釈に必要となる統計的な基礎的事項 第7・8回：基礎的情報としての各種検査の実際（1）：発達検査 第9・10回：基礎的情報としての各種検査の実際（2）：言語検査 第11・12回：基礎的情報としての各種検査の実際（3）：言語コミュニケーション検査 第13・14回：基礎的情報としての各種検査の実際（4）：知能検査 第15・16回：各種検査の結果とそれに基づく指導計画の立て方			
テキスト 大沼直紀監修・著（2017）教育オーディオロジーハンドブック．ジアース教育新社			
参考書・参考資料等 文部科学省（2020）聴覚障害教育の手引．ジアース教育新社.			
学生に対する評価 課題レポート：50点、小テスト50点			

授業科目名： 聴覚障害者指導論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢
			担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
聴覚障害児の読み書きの困難とその背景要因、及び読み書きの指導法とその評価方法について説明できる。			
授業の概要			
聴覚障害児の読み書きの困難さの原点、及び聴覚障害児の読み書き指導とその評価方法について教授する。			
授業計画			
第1・2回：聴覚障害児の言語発達 第3・4回：聴覚障害児の言語理解と産出のメカニズム 第5・6回：聴覚障害児への言語指導の考え方 第7・8回：聴覚障害児の読み書きの発達と困難 第9・10回：聴覚障害児の読み書きと指導 第11・12回：聴覚障害児の読み書きの評価 第13・14回：聴覚障害児の読み書きの発達と手話 第15・16回：まとめとテスト			
テキスト			
四日市章編著（2009）リテラシーと聴覚障害．コレール社			
参考書・参考資料等			
文部科学省（2020）聴覚障害教育の手引．ジアース教育新社. 長南浩人（2022）言語・思考・感性の発達からみた聴覚障害児の指導方法．学苑社.			
学生に対する評価			
課題レポート：50点、テスト50点			

授業科目名： 聴覚障害者指導論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢
			担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
聴覚障害児の自立活動の位置づけと内容、また実際の指導・学習の内容について説明できる。			
授業の概要			
聴覚障害児の自立活動の位置づけと内容、また実際の指導・学習の内容について教授する。			
授業計画			
第1・2回：聴覚障害教育における自立活動の位置づけ			
第3・4回：聴覚障害教育の歴史と自立活動			
第5・6回：聴覚障害教育における自立活動の実際：通常の学校			
第7・8回：聴覚障害教育における自立活動の実際：幼稚部			
第9・10回：聴覚障害教育における自立活動の実際：小学部			
第11・12回：聴覚障害教育における自立活動の実際：中学部			
第13・14回：聴覚障害教育における自立活動の実際：高等部			
第15・16回：まとめとテスト			
テキスト			
四日市章編著（2009）リテラシーと聴覚障害．コレール社			
文部科学省（2020）聴覚障害教育の手引．ジアース教育新社.			
参考書・参考資料等			
長南浩人（2022）言語・思考・感性の発達からみた聴覚障害児の指導方法．学苑社.			
学生に対する評価			
課題レポート：50点、テスト50点			

授業科目名： 特別支援教育支援演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育のうち、聴覚障害児教育やその関連領域に焦点を当て、文献等の情報収集・検索方法を理解・習得し、論文の読解力の向上や、論文に記載されている知見の解釈の視点を身につけることを目標とする。			
授業の概要 聴覚障害児教育の歴史や制度、教育現場での工夫や解決すべき課題等のテーマに関して、関連する文献資料を自らの問題意識に基づいて収集・整理し、その内容について報告するとともに、議論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：文献収集・検索の方法（1）（文献の概要と収集方法） 第3回：文献収集・検索の方法（2）（データベースによる収集方法） 第4回：研究方法（1）（研究方法の概要） 第5回：研究方法（2）（文献研究の方法） 第6回：研究方法（3）（調査研究：アンケート調査の目的と方法） 第7回：研究方法（4）（調査研究：アンケート調査の結果と考察） 第8回：研究方法（5）（調査研究：インタビュー調査の目的と方法） 第9回：研究方法（6）（調査研究：インタビュー調査の結果と考察） 第10回：個人発表・議論（1）（収集文献の購読：文献研究） 第11回：個人発表・議論（2）（収集文献の購読：文献研究） 第12回：個人発表・議論（3）（収集文献の購読：調査研究：アンケート調査） 第13回：個人発表・議論（4）（収集文献の購読：調査研究：アンケート調査） 第14回：個人発表・議論（5）（収集文献の購読：調査研究：インタビュー調査） 第15回：個人発表・議論（6）（収集文献の購読：調査研究：インタビュー調査） 第16回：まとめ（研究テーマに関する方向性の整理）			
テキスト 適宜紹介する			

参考書・参考資料等

穴戸和成他 編著（2023）聴覚障害教育の基本と実践（特別支援教育のエッセンス）．慶應義塾大学出版会．

田中真理・横田晋務 編著（2023）障害から始まるイノベーション．北大路書房．

学生に対する評価

授業への貢献度50点、発表50点

授業科目名： 特別支援教育支援演習 Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育のうち、聴覚障害児教育やその関連領域に焦点を当て、文献等の情報収集・検索方法を理解・習得し、論文の読解力の向上や、論文に記載されている知見の解釈の視点を身につけることを目標とする。			
授業の概要 聴覚障害児教育の歴史や制度、教育現場での工夫や解決すべき課題等のテーマに関して、関連する文献資料を自らの問題意識に基づいて収集・整理し、その内容について報告するとともに、議論を行う。			
授業計画 第1回：個人発表・議論（1）（関心のあるテーマについて：背景と目的、方法） 第2回：個人発表・議論（2）（関心のあるテーマについて：背景と目的、方法） 第3回：個人発表・議論（3）（関心のあるテーマについて：背景と目的、方法） 第4回：個人発表・議論（4）（関心のあるテーマについて：背景と目的、方法） 第5回：個人発表・議論（5）（収集文献の購読） 第6回：個人発表・議論（6）（収集文献の購読） 第7回：個人発表・議論（7）（収集文献の購読） 第8回：個人発表・議論（8）（収集文献の購読） 第9回：個人発表・議論（9）（収集文献の購読） 第10回：個人発表・議論（10）（収集文献の購読） 第11回：個人発表・議論（11）（収集文献の購読） 第12回：個人発表・議論（12）（収集文献の購読） 第13回：個人発表・議論（13）（収集文献の購読） 第14回：個人発表・議論（14）（収集文献の購読） 第15回：個人発表・議論（15）（収集文献の購読） 第16回：まとめ（研究テーマに関する方向性の整理）			
テキスト 適宜紹介する			

参考書・参考資料等

穴戸和成他 編著（2023）聴覚障害教育の基本と実践（特別支援教育のエッセンス）．慶應義塾大学出版会．

田中真理・横田晋務 編著（2023）障害から始まるイノベーション．北大路書房．

学生に対する評価

授業への貢献度50点、発表50点

授業科目名： 知的障害者教育課程・ 方法論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援学校学習指導要領を基準として知的障害特別支援学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。また、知的障害のある児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
授業の概要			
知的障害児教育(知的障害を伴う自閉症児を含む)における教育課程や指導法について、学習指導要領の解説や各種手引書、授業ビデオや指導案等を用いながら論ずる。			
授業計画			
第1回 知的障害の本質論：「遅れ」の意味について考える 自閉症の本質論：「依存」の意味について考える			
第2回 知的障害児教育における教材論：「思わず」の意味について考える			
第3回 知的障害児教育における授業論：「子供と一緒に歩む」の意味について考える			
第4回 知的障害児教育における教育課程編成の意義、方法			
第5回 知的障害児教育におけるカリキュラム・マネジメント			
第6回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業1：この世界が数の世界として見えてくるとき(算数科の授業)			
第7回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業2：正確に測ることが重要になってくるとき(数学科の授業)			
第8回 まとめ			
テキスト			
文部省(2019)特別支援学校学習指導要領解説：各教科等編(幼稚部・小学部・中学部)文部科学省 Retrieved January 23, 2023 from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_4.pdf			
参考書・参考資料等			
三浦光哉(著・監修)・岩松雅文(著)・川村修弘(著)(2021)知的障害教育の「教科別の指導」と「合わせた指導」新学習指導要領を踏まえた19の学習指導案. ジアース教育新社.			

名古屋恒彦（2022）知的障害教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」．東洋館出版社

学生に対する評価

小レポート50点、最終レポート50点

授業科目名： 知的障害者教育課程・ 方法論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援学校学習指導要領を基準として知的障害特別支援学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。また、知的障害のある児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
授業の概要			
知的障害児教育(知的障害を伴う自閉症児を含む)における教育課程や指導法について、学習指導要領の解説や各種手引書、授業ビデオや指導案等を用いながら論ずる。			
授業計画			
第1回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業4：言葉では表せない世界が表現されるとき（音楽科・図画工作科・美術科の授業）			
第2回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業5：新たな身体領域が開拓されるとき（体育科の授業）			
第3回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業6：日常が非日常になるとき（日常生活の指導）			
第4回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業7：「こんな生活があったらいいよね」の「こんな生活」が実現されるとき（生活単元学習）			
第5回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業8：教材が語り掛けてくるとき（遊びの指導）			
第6回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業9：「仕事」という意識が生まれるとき（作業学習・進路指導・キャリア教育）			
第7回 「子供と一緒に歩む」を大切にする授業10：「折り合い」がつけられるようになるとき（自立活動の指導）、「子供と一緒に歩む」を大切にする授業11：自立活動における個別の指導計画の作成プロセス			
第8回 教科別指導における自立活動の指導、まとめ			
テキスト			
文部省（2019）特別支援学校学習指導要領解説：各教科等編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省 Retrieved January 23, 2023 from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_4.pdf			
参考書・参考資料等			

三浦光哉（著・監修）・岩松雅文（著）・川村修弘（著）（2021）知的障害教育の「教科別の指導」と「合わせた指導」新学習指導要領を踏まえた 19 の学習指導案. ジアース教育新社.
名古屋恒彦（2022）知的障害教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」. 東洋館出版社.

学生に対する評価

小レポート50点、最終レポート50点

授業科目名： 肢体不自由者教育課程 ・方法論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。さらに、肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
授業の概要			
肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法について、具体例を交え解説する。			
授業計画			
第1回：授業案内			
第2回：教育課程とは			
第3回：教育課程の編成の意義（1）生きる力との関連			
第4回：教育課程の編成の意義（2）障害による学習上又は生活上の困難との関連			
第5回：教育課程の編成とは（1）編成上の一般的留意点			
第6回：教育課程の編成とは（2）肢体不自由児教育における留意点			
第7回：教育課程編成の方法（1）手順①計画			
第8回：教育課程編成の方法（2）手順②編成及び点検			
第9回：肢体不自由児の教育課程におけるカリキュラム・マネジメント（1）考え方			
第10回：肢体不自由児の教育課程におけるカリキュラム・マネジメント（2）実際			
第11回：個別の指導計画の作成（1）考え方			
第12回：個別の指導計画の作成（2）実際			
第13回：自立活動における個別の指導計画の作成（1）考え方			
第14回：自立活動における個別の指導計画の作成（2）実際			
第15回：ふりかえりとまとめ			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 障害のある子の保育・教育のための教養講座、佐藤暁、ミネルヴァ書房			

学生に対する評価 小レポート 50%、定期試験 50%

授業科目名： 肢体不自由者教育課程 ・方法論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。さらに、肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。			
授業の概要			
肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法について、具体例を交え解説する。			
授業計画			
第1回：授業案内			
第2回：肢体不自由児の教育指導の基本			
第3回：肢体不自由児の動作分析（1）仰臥位			
第4回：肢体不自由児の動作分析（2）腹臥位			
第5回：肢体不自由児の動作分析（3）坐位			
第6回：肢体不自由児の動作分析（4）膝たち・四つ這い位			
第7回：肢体不自由児の動作分析（5）立位			
第8回：肢体不自由児の動作分析（6）歩行			
第9回：肢体不自由児における自立活動の指導（1）目標			
第10回：肢体不自由における自立活動の指導（2）内容の選定			
第11回：肢体不自由児の教科指導と自立活動との関連（1）認知			
第12回：肢体不自由児の教科指導と自立活動との関連（2）表出			
第13回：学習指導案の作成（1）考え方			
第14回：学習指導案の作成（2）実際			
第15回：ふりかえりとまとめ			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 障害のある子の保育・教育のための教養講座、佐藤暁、ミネルヴァ書房			

学生に対する評価 小レポート 50%、定期試験 50%

授業科目名： 病弱者教育課程・方法 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上理絵
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病、含む領域：知・肢)		
授業のテーマ及び到達目標：病弱教育の歴史、制度、教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。また、病気のある幼児児童生徒の心理・病理を踏まえ、教育的ニーズに応じた自立活動の設定や指導方法に関する理解を深める。			
授業の概要：病弱教育の対象・制度・教育課程や、病気のある幼児児童生徒への指導方法や配慮事項を概説する。			
授業計画			
第1回：学校教育における病弱教育の位置づけ			
第2回：病弱教育の歴史			
第3回：病弱教育の制度			
第4回：病弱教育における教育課程			
第5回：病弱教育におけるカリキュラム・マネジメント			
第6回：小児がん、腎臓病等の原因・治療と教育的支援			
第7回：心臓病、重複障害等の原因・治療と教育的支援			
第8回：てんかん、治療による副作用等の原因・治療と教育的支援			
第9回：精神疾患の病理と医学的治療			
第10回：精神疾患の病理と心理療法			
第11回：精神疾患等の児童生徒の心理と教育的支援			
第12回：精神疾患等と発達障害（二次障害の予防）			
第13回：不登校と病弱教育			
第14回：不登校の児童生徒の心理と教育的支援1 学習面			
第15回：不登校の児童生徒の心理と教育的支援2 生活面			
第16回：ターミナル期の児童生徒の理解と教育的支援			
第17回：学校における配慮事項1 教科指導			
第18回：学校における配慮事項2 生活指導			
第19回：病弱教育における実態把握			
第20回：自己管理能力の育成と自立活動			
第21回：病弱教育における授業の立案			

第 2 2 回：病弱教育における指導の実際

第 2 3 回：病弱教育における ICT の活用

第 2 4 回：感情の発達「病気」概念の発達

第 2 5 回：病弱児とストレス

第 2 6 回：病気のある子どもの不安と教育的支援

第 2 7 回：自己概念の発達 1 自己効力感

第 2 8 回：自己概念の発達 2 自尊感情

第 2 9 回：ストレス対処過程とソーシャルサポート

第 3 0 回：感情の役割と取り扱いカウンセリングマインド

第 3 1 回：家庭や学校との連携・協働の意義と実際

第 3 2 回：通常の学級の教員による復学支援

定期試験

テキスト

編著：日本育療学会 編集：山本 昌邦・島 治伸・滝川 国芳 標準「病弱児の教育」テキスト
ト （改訂版 2022年3月発行予定） ジアース教育新社 2022

参考書・参考資料等

全国特別支援学校病弱教育校長会（編著），2012年，『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものガイドブック：病弱教育における指導の進め方』 ジアース教育新社.

武田鉄郎，2017年，『発達障害の子どもの「できる」を増やす提案・交渉型アプローチ』，学研プラス

齊藤万比古（編著）2011年，『発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート』，学研プラス

学生に対する評価

受講態度10%、毎授業の小レポート30%、中間試験（知識中心）30%、最終試験（思考中心）30%

授業科目名： 知的障害者指導論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害特別支援学校の授業場面で生じる様々な教師―教材―子供間での出来事を取り上げ、行動科学の理論に基づきながら考察する。 応用行動分析学の主要な概念や理論について説明できる。 応用行動分析学の主要な概念や理論を用いながら、知的障害特別支援学校の教科別指導、各教科等を合わせた指導、自立活動の時間の指導においてみられる指導の改善点を見出すことができる。			
授業の概要 知的障害特別支援学校の授業場面で生じる様々な教師―教材―子供間での出来事を取り上げ、行動科学の理論に基づきながら解説する。			
授業計画 第1回 客観主義パラダイム 第2回 行動に随伴する結果事象操作 第3回 直前のきっかけを操作する手法 第4回 背景要因を操作する手法 第5回 物的支援と人的支援 第6回 単位行動の連鎖化 第7回 コミュニケーション指導 第8回 学習指導案と応用行動分析学、期末テスト			
テキスト 杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・リチャード・W・マロット・マリア・E・マロット著（2022） ． 行動分析学入門（第2版） 産業図書			
参考書・参考資料等 講義で適宜配布する			
学生に対する評価 小テスト（50％）、期末テスト（50％）に基づき総合的に評価する。			

授業科目名： 知的障害者指導論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久
				担当形態：単独
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害特別支援学校の授業場面で生じる様々な教師―教材―子供間での出来事を取り上げ、関係発達理論に基づきながら考察する。 ①関係発達の主要な概念や理論について説明できる。 ②関係発達の主要な概念や理論を用いながら、当事者として体験した実習中の出来事をエピソード化し、その意味づけを行い、また改善点を見出すことができる。				
授業の概要 ■ 知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級における学習指導場面や生徒指導場面からエピソードを抽出し、それを教材として、当該概念や理論について解説する。 ■ 当該概念や理論の説明を聞く中で浮かび上がってきた実習中の出来事を、エピソードとして記述する機会を受講者に与える。記述したエピソードを用い、当該概念や理論を用いて意味づけを行う機会、改善点を見出す機会を与える。 ■ 附属特別支援学校小学部・中学部・高等部からそれぞれ 1 名ずつゲストスピーカーとしてお招きする。担当教員とゲストスピーカーがやりとりしながら当該概念や理論を用いてゲストスピーカーが紹介した授業実践を意味づける。その過程にグループ討議の時間を設けながら受講者の積極的参加を促す。				
授業計画 第1回 インTRODakション：関係発達の概念や理論を学ぶ意義 第2回 間主観的にわかるということ 第3回 互いが主体として生きるということ 第4回 接面の当事者として意識体験を取り上げるということ 第5回 関係発達の概念や理論から知的障害特別支援学校の授業実践を捉える（教科別指導） 第6回 関係発達の概念や理論から知的障害特別支援学校の授業実践を捉える（各教科等を合わせた指導） 第7回 関係発達の概念や理論から知的障害特別支援学校の授業実践を捉える（自立活動） 第8回 まとめ：関係発達の概念や理論と授業改善				
テキスト 文部省（2019）特別支援学校学習指導要領解説：各教科等編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省 Retrieved January 23, 2023 from https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_4.pdf				
参考書・参考資料等				

鯨岡峻（2016）関係の中で人は生きる―「接面」の人間学に向けて．ミネルヴァ書房

学生に対する評価

レフレクションペーパー（50％）、期末レポート（50％）に基づき総合的に評価する。

授業科目名： 特別支援臨床演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の指導にかかわる基本的な心得と技法を知る。			
授業の概要 障害のある子どもの指導の具体例を挙げながら、実践の機微の数々を紹介する。			
授業計画 第1回：授業紹介 第2回：特別支援臨床と心理臨床との関係 第3回：心理臨床の基本（1）基本的な心得 第4回：ディスカッション 第5回：心理臨床の基本（2）してはいけないこと 第6回：ディスカッション 第7回：心理臨床の技法（1）傾聴の意義 第8回：ディスカッション 第9回：心理臨床の技法（2）カウンセリング・マインド 第10回：ディスカッション 第11回：心理臨床の実際（1）一般的な面接手続き 第12回：ディスカッション 第13回：心理臨床の実際（2）危機介入の事例 第14回：ディスカッション 第15回：ふりかえりとまとめ 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 対話と協力を生み出す協同学習、佐藤暁、創元社			
学生に対する評価 発表・ディスカッション50％、レポート50％			

授業科目名： 特別支援臨床演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 佐藤暁
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の指導にかかわる基本的な心得と技法を知る。			
授業の概要 障害のある子どもの指導の具体例を挙げながら、数々の実践の機微を紹介する。			
授業計画 第1回：授業紹介 第2回：教育活動としての特別支援臨床（教育臨床） 第3回：自閉症への教育臨床 第4回：ディスカッション 第5回：ADHDへの教育臨床 第6回：ディスカッション 第7回：知的障害への教育臨床 第8回：ディスカッション 第9回：脳性麻痺への教育臨床 第10回：ディスカッション 第11回：強度行動障害への教育臨床 第12回：ディスカッション 第13回：重症心身障害への教育臨床 第14回：ディスカッション 第15回：ふりかえりとまとめ 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 対話と協力を生み出す協同学習、佐藤暁、創元社			
学生に対する評価 発表・ディスカッション50%、レポート50%			

授業科目名： 特別支援実践演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育の現場で頻繁に使用される重要なことば・概念について、子どもの具体的な姿を描きながら説明することができる。			
授業の概要			
知的障害児教育実践の中で用いられる重要なことば・概念について、さまざまな実践事例や文献を参照しながらその意味を考える。 特別支援教育実践の中で生じている出来事を切り出し、そこから重要な概念を導き出す方法について教授する。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の実践現場で用いられる様々な用語について			
第2回：「主体的に」「主体として」から思い浮かぶ子どもの姿			
第3回：「主体的に」「主体として」ということばの使われ方から何が見えるか			
第4回：「私是一个の主体である」というときの主体概念			
第5回：主体は世代間関係の中に立ち現れる			
第6回：主体とは一つの両義性である			
第7回：相互主体的な関係として子ども一大人、子ども一子ども関係をとらえる			
第8回：まとめ			
テキスト			
鯨岡峻（2006）．ひとがひとをわかるということ ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
講義で適宜配布する。			
学生に対する評価			
発表レジュメ（50％）、期末レポート（50％）に基づき総合的に評価する。			

授業科目名： 特別支援実践演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大竹喜久
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害特別支援学校の教科別指導、各教科等を合わせた指導、自立活動の時間の指導等で生じている子供―教材―教師間の出来事を取り上げる。それらについて、間主観性、共同主観性、相互主体性の概念から説明できる。			
授業の概要			
知的障害特別支援学校の教科別指導、各教科等を合わせた指導、自立活動の時間の指導等で生じている子供―教材―教師間の出来事を取り上げる。それらについて、間主観性、共同主観性、相互主体性の概念から解説する。			
授業計画			
第1回：間主観性の意味			
第2回：共同主観性の意味			
第3回：相互主体性と間主観性、共同主観性との関係			
第4回：観察者もまた一個の主体である			
第5回：子ども―大人関係における主体であることの「厚み」の違い			
第6回：相互主体性の概念から「育てる」について考える			
第7回：子どもが大人を間主観的に受け止めるときとは			
第8回：総合考察			
テキスト			
鯨岡峻 (2006) . ひとがひとをわかるということ ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
講義で適宜配布する。			
学生に対する評価			
発表レジュメ (50%) 、期末レポート (50%) に基づき総合的に評価する。			

授業科目名： 視覚障害者教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標			
眼球の構造、視機能、眼疾患に関する基本的内容の理解、及び視覚特別支援学校、弱視学級、弱視通級指導教室の教育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントについて基礎的な知識を獲得する。また、視覚障害児童生徒の指導法についても基礎的な知識を獲得する。			
授業の概要			
授業担当者が盲学校での指導経験に基づき、視覚障害児童生徒の教育課程や学びの場、視覚障害の原因疾患について解説する。これを踏まえ、視覚障害教育の実際について考える。			
授業計画			
第1回・2回：視覚障害児童生徒の教育課程、学びの場 第3回・4回：視覚障害教育の歴史的変遷 第5回・6回：視覚の基本、視覚障害の定義、分類及び視覚障害原因等の推移 第7回・8回：視覚障害乳幼児に対する早期支援 第9回・10回：視覚障害特別支援学校における職業教育 第11回・12回：自立活動の指導 第13回・14回：個別の指導計画の取り扱い、カリキュラム・マネジメントの考え方 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
青柳まゆみ、鳥山由子(2019)、新・視覚障害教育入門、ジアース教育新社出版			
参考書・参考資料等			
大河原潔(1977)、視覚障害教育の理論と実践			
学生に対する評価			
授業ごとの小課題と最終レポートにより評価する。			

授業科目名： 聴覚障害者教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 下中村武・岡田千登勢 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 ・聴覚障害に関する聴覚系の病理面、心理面、生理面の特性等を理解し、観察や検査を通して幼児、児童又は生徒の聞こえの状態や言語面・心理面の特性、発達等を把握することを理解し、家庭や関連機関との連携についても理解する。 ・聴覚障害教育における教育課程についての意義を理解し、教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントについて理解する。 ・聴覚障害の状態や特性、発達の段階等を踏まえた各教科指導等における配慮事項について理解し、自立活動の指導と具体的な授業設計を行う方法を身につける。			
授業の概要 聴覚障害教育の概要を総論的に触れ、聴覚系の心理・病理・生理に関する基礎的事項、聞こえの評価法と補償方法等を説明する。コミュニケーション手段、聴覚障害教育における教育課程と教育内容や指導法等を解説する。また、聴覚障害教育における指導の歴史を概観する。			
授業計画 第1・2回 聴覚障害教育の概要 第3・4回 聞こえの仕組み・構造と機能、補聴器・人工内耳の構造と機能 第5・6回 聴覚障害教育と教育課程の編成、カリキュラム・マネジメント 第7・8回 聴覚障害児への教科指導と自立活動 第9・10回 聴覚障害児の早期発見と早期教育、家庭や関連機関との連携 第11・12回 聴覚障害児の言語発達と指導 第13・14回 聴覚障害児への情報保障（手話、ノートテイク） 第15・16回 まとめとテスト			
テキスト 宇高二良・長嶋比奈美・加藤哲則 編著（2021）聴覚障害教育領域 聞こえの困難への対応、建帛社。			

参考書・参考資料等

宮本信也・竹田一則編著（2007）障害理解のための医学・生理学．明石書店．

藤田郁代（2021）聴覚障害学 第3版（標準言語聴覚障害学）．医学書院．

田中真理・横田晋務 編著（2023）障害から始まるイノベーション．北大路書房．

学生に対する評価

授業後の小レポート35点、期末テスト65点

授業科目名： 発達障害者教育概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 丹治敬之・大守伊織
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発)		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 発達障害のある子どもの心理面の特徴、脳機能、認知・行動特性について理解する 2) 家庭や医療、福祉機関等との連携、さらには校内での連携の重要性を理解する 3) 通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程の意義について理解できる 4) 多様な発達特性をふまえた個に応じた手立てや配慮、学習環境の整備、授業の工夫について理解できる			
授業の概要			
本講義は、発達障害のある子どもの心理特性、教育課程、指導法の観点から、発達障害のある子どもの教育に関する基本的事項の理解をめざす内容を扱います。			
授業計画			
第1回：発達障害と特別支援教育（1）発達障害のある子どもの学びの場と教育課程（担当：丹治） 第2回：発達障害と特別支援教育（2）特別な教育課程の編成（担当：丹治） 第3回：発達障害のある子どもの特別な教育課程（1）自立活動（担当：丹治） 第4回：発達障害のある子どもの特別な教育課程（2）個別的教育支援計画と個別の指導計画（担当：丹治） 第5回：発達障害のある子どもの自立活動の指導（担当：丹治） 第6回：発達障害のある子どもの教育連携：保護者・校内連携（担当：丹治） 第7回：学習障害（LD）の脳機能・生理・病理（担当：大守） 第8回：学習障害（LD）と医療・福祉機関との連携（担当：大守） 第9回：注意欠如多動性障害（ADHD）の脳機能・生理・病理（担当：大守） 第10回：注意欠如多動性障害（ADHD）と医療・福祉機関との連携（担当：大守） 第11回：自閉症スペクトラム（ASD）・言語障害・情緒障害の脳機能・生理・病理（担当：大守） 第12回：自閉症スペクトラム（ASD）・言語障害・情緒障害と医療・福祉機関との連携（担当：大守）			

第13回：発達障害の認知・心理特性（1）知能検査（担当：丹治） 第14回：発達障害の認知・心理特性（2）認知検査（担当：丹治） 第15回：発達障害を理解・支援するために必要なこと（まとめ）（担当：丹治） 定期試験またはレポート
テキスト なし
参考書・参考資料等 近藤武夫編（2016）学校でのICT利用による読み書き支援：合理的配慮のための具体的な実践．金子書房． 医療情報科学研究所（編集）（2022）病気がみえるvol.15 小児科 メディックメディア第1版
学生に対する評価 試験またはレポート60％，ミニレポート20％，講義中の意欲・態度・発表等20％の割合で総合的に評価します。

授業科目名：発達障害者教育概論Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：丹治敬之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発)		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 発達障害のある子どもの心理面の特徴、脳機能、認知・行動特性について理解する 2) 家庭や医療、福祉機関等との連携、さらには校内での連携の重要性を理解する 3) 通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程の意義について理解できる 4) 多様な発達特性をふまえた個に応じた手立てや配慮、学習環境の整備、授業の工夫について理解できる			
授業の概要			
本講義は、発達障害のある子どもの心理特性、教育課程、指導法の観点から、発達障害のある子どもの教育に関する基本的事項の理解をめざす内容を扱います。			
授業計画			
第1回：発達障害のある子どもの指導（1）通級による指導の事例（担当：丹治） 第2回：発達障害のある子どもの指導（1）特別支援学級の事例（担当：丹治） 第3回：LDのある子どもの個に応じた手立て（1）根拠に基づく指導（担当：丹治） 第4回：LDのある子どもの個に応じた手立て（2）ICT活用（担当：丹治） 第5回：ADHDのある子どもの個に応じた手立て（1）環境整備（担当：丹治） 第6回：ADHDのある子どもの個に応じた手立て（2）SST（担当：丹治） 第7回：ASD・言語障害・情緒障害のある子どもの個に応じた手立て（1）情報保障（担当：丹治） 第8回：ASD・言語障害・情緒障害のある子どもの個に応じた手立て（2）意味づけ支援（担当：丹治） 第9回：学校における合理的配慮（1）事例紹介（担当：丹治） 第10回：学校における合理的配慮（2）事例検討（担当：丹治） 第11回：多様な子どもたちが学びやすい授業（1）ユニバーサルデザインの考え方（担当：丹治） 第12回：多様な子どもたちが学びやすい授業（2）授業のユニバーサルデザイン（担当：丹治） 第13回：多様な子どもたちが安心してすごしやすい学級（1）人的・物的環境の整備（担当：丹治）			

) 第14回：多様な子どもたちが安心してすごしやすい学級（2）学級経営のユニバーサルデザイン（担当：丹治） 第15回：発達障害のある子どもの指導・支援でたいせつなこと（まとめ）（担当：丹治） 定期試験またはレポート
テキスト なし
参考書・参考資料等 NHKスペシャル取材班（2018）発達障害を生きる．集英社．
学生に対する評価 試験またはレポート60％，ミニレポート20％，講義中の意欲・態度・発表等20％の割合で総合的に評価します。

授業科目名： 言語障害者教育概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 津島靖子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発)		
授業のテーマ及び到達目標 言語障害に対する基礎的知識を修得し、個々の言語障害の状態や教育的ニーズを把握するための評価の方法について理解を深める。 ・ 構音障害、吃音、特異的言語発達遅滞などの主な言語障害の状態像を理解する。 ・ 言語障害の特徴や状態等を把握する方法を理解し説明できる。			
授業の概要 将来、教師として学校で出会うことが想定される、言語障害（構音障害、吃音、特異的言語発達遅滞）の心理・生理・病理的特徴と言語障害の状態等を把握する方法を理解する。なお、授業は言語障害について理解を深めるために発表やディスカッションを取り入れて行う。			
授業計画 第1回：言語発達とコミュニケーション 第2回：子どもの言語障害 第3回：発声・発語器官の仕組み 第4回：音の種類と表記法 第5回：評価の実際①構音 第6回：評価の実際②流暢性 第7回：評価の実際③言語・コミュニケーション 第8回：子どもの心理と保護者支援 定期試験			
テキスト ・ 必要に応じて資料やテキストについて指示する。 ・ 文部科学省「障害のある子供の教育的支援の手引き 第3編 障害の状態に応じた教育的対応Ⅳ 言語障害」の該当ページを印刷して授業に持参すること。			
参考書・参考資料等			

- ・能登谷晶子，諏訪美幸編著「症例から学ぶ子どもの構音障害」建帛社 ISBN：97847679
- ・山崎祥子著「子どもの発音とことばのハンドブック」芽ばえ社 ISBN：9784895793452
- ・梅崎祐司著「遊びながら学ぶ発音・発声，ことばの指導―簡単手作り教材 20」
明治図書出版 ISBN：978-4895793452
- ・菊池良和，高橋三郎，仲野里香著「もう迷わない！ ことばの教室の吃音指導：今すぐ使える
ワークシート付き」学苑社 ISBN：978-4761408367

学生に対する評価

積極的な授業への参加姿勢（10％），課題・小テスト（30％），試験（60％）で総合評価する。定期試験は，授業で扱った知識に関する理解の程度と言語障害の評価・具体的支援について考えることができるかを評価する。小テストを実施した場合は授業中に解答・解説を行う。

授業科目名： 言語障害者教育概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 津島靖子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発)		
授業のテーマ及び到達目標 言語障害に対する基礎的知識を修得したうえで、子どもの教育的ニーズを把握するための評価の方法、指導上の配慮や指導の在り方について考える。 ・言語障害に対する教育課程について理解する。 ・言語障害の状態等を把握する方法や指導法を理解し説明できる。 ・言語障害のある子どもへの指導の在り方について考えることができる。			
授業の概要 将来、教師として学校で出会うと想定される、言語障害（構音障害、吃音、特異的言語発達遅滞）に関する基礎的知識を修得したうえで、通級指導や通常の学級の授業場面を想定した配慮事項や支援の在り方について理解を深める。言語障害について理解を深めるために発表やディスカッションを授業に取り入れて行うことがある。なお、受講者は「言語障害教育概論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。			
授業計画 第1回：言語障害教育の教育課程 第2回：指導の実際①言語検査と聴覚的印象による評価 第3回：指導の実際②結果の解釈と指導目標の設定 第4回：指導の実際③各教科等の指導における配慮 第5回：指導の実際④指導計画 第6回：言語障害と発達障害 第7回：多職種との連携・協働 定期試験			
テキスト ・必要に応じて資料やテキストについて指示する。 ・文部科学省「障害のある子供の教育的支援の手引き 第3編 障害の状態に応じた教育的			

対応 IV 言語障害」の該当ページを印刷して授業に持参すること。

参考書・参考資料等

- ・能登谷晶子，諏訪美幸編著「症例から学ぶ子どもの構音障害」建帛社 ISBN：97847679
- ・山崎祥子著「子どもの発音とことばのハンドブック」芽ばえ社 ISBN：9784895793452
- ・梅崎祐司著「遊びながら学ぶ発音・発声，ことばの指導一簡単手作り教材 20」
明治図書出版 ISBN：978-4895793452
- ・菊池良和，高橋三郎，仲野里香著「もう迷わない！ ことばの教室の吃音指導：今すぐ使える
ワークシート付き」学苑社 ISBN：978-4761408367

学生に対する評価

積極的な授業への参加姿勢（10％），課題・小テスト（40％），試験（50％）で総合評価する。定期試験は，授業で扱った内容に関する理解の程度と言語障害の評価・具体的支援について考えることができるかを評価する。小テストを実施した場合は授業中に解答・解説を行う。

授業科目名：重度・重複障害者教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 船橋篤彦
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重)		
授業のテーマ及び到達目標 重複障害教育における教育課程編制とその特色及び教科や自立活動の指導の学習を通して、 重度・重複障害のある幼児児童生徒が示す学習上及び生活上の困難について理解する。また、 個別の教育支援計画や個別の指導計画、カリキュラムマネジメントについて知識の習得を図る。 。			
授業の概要 講義前半では、重複障害教育の基礎的事項として、多様な実態を示す子供達の生理・病的な 背景及び心理発達と健康支援について学習する。講義後半では、重複障害教育の教育課程の特 色、各教科や自立活動の指導における留意点について学習指導要領の記載事項を踏まえて学習 する。あわせて、重複障害児を教育する特別支援学校におけるカリキュラムマネジメントにつ いて、学校の取り組みを踏まえて紹介し、協議を行う。			
授業計画 1. 重度・重複障害とはどのような「障害」か？（歴史や教育・福祉制度を中心に） 2. 重度・重複障害児・者の実態（生理・病的背景） 3. 重度・重複障害児の教育をめぐって（学校における医療的ケアを含む） 4. 重度・重複障害児を発達の視点で捉える 5. 重度・重複障害児の自立活動 6. 重度・重複障害児の各教科等の指導 7. 重度・重複障害児の摂食・嚥下・呼吸 8. 重度・重複障害児に対する今後の教育（個別の指導計画やカリマネ等を中心に）			
定期試験			
テキスト 檉木暢子・金森克浩・船橋篤彦（編著）復習の困難への対応 建帛社			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 レポート80%、授業内での課題提出物20%